

土着天敵タバコカスミカメを活用した夏秋ピーマンにおけるアザミウマ防除

【研究のポイント】

アザミウマは体長が1~2mmの小さな虫ですが、ピーマン栽培で最も注意が必要な害虫です。アザミウマは黄化えそ病というウイルス病を媒介し、この病気にかかったピーマンは葉が正常に展開しなくなり、枯れてしまいます。

今回の研究の主役であるタバコカスミカメは大分県内にも生息する雑食性のカメムシの仲間、アザミウマの天敵として知られています。この天敵は様々な品目で利用が検討されていますが、夏秋ピーマンにおける研究はこれまでありませんでした。そこで、タバコカスミカメを夏秋ピーマンでアザミウマ類防除を目的に利用可能かどうか検討しました。



ヒラズハナアザミウマ      タバコカスミカメ      ピーマン黄化えそ病(新葉に特徴的な斑点が出る)

【研究の成果】

●タバコカスミカメの集め方と圃場への放飼方法



クレオメを屋外で育てるとタバコカスミカメが集まる      8月中旬以降花穂のみを収穫      コンテナ等に入れピーマンの株元に設置      ピーマンの花や新芽をパトロールし捕食する

●アザミウマの防除効果

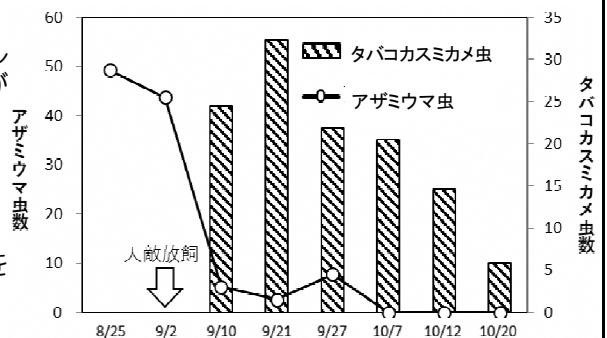
タバコカスミカメを上記の手法で放飼したところ、翌週からアザミウマ類の密度が下がりました。これまで行った3試験全てで同様の効果が見られています。

●利用のポイント

8月中旬以降にクレオメを刈り取り圃場内に設置することが安定的な天敵の定着を促します。

●今後の計画

天敵昆虫の利用にあたってはハウス形態や栽培管理等によって使い方にアレンジが必要な場合があります。現地実証を通して効果を再検証するとともに、既存の防除体系にどのように組み込んでいくのが今後の課題です。



【生産者の声】

生物農薬(カブリダニ)を使用し、アザミウマの発生を抑制する技術は、当支部においても、すでに確立されつつあります。しかし、カブリダニが捕食するのはアザミウマの幼虫であり、成虫の飛び込み等への対策も重要です。タバコカスミカメやヒメハナカメムシ等を利用した、「夏秋ピーマン栽培」での防除技術の実用化は、クリアすべき問題もあるが、今後取り組むべき課題といえます。

JA大分ピーマン部会 豊後大野支部 事務局長 福井敏之

【連絡先】

担当： 農業研究部 病害虫対策チーム  
 TEL： 0974-28-2078  
 住所： 豊後大野市三重町赤嶺2328-8